

(討議資料) 浜野喜史の“今”をお伝えします！

# HAMA-NOW!



7月の参議院選挙においては、**小林正夫議員**が、党内比例得票最多となる270,285人もの仲間の後押しで、3選を果たしました。皆様のご協力・ご努力に心から敬意を表します。

9月26日に始まった第192回臨時国会では、TPPをめぐる審議が大詰めを迎えています。近い時期の衆議院解散・総選挙もささやかれる中、与野党ともに一時の揚げ足取りやごまかしの議論に陥ることなく、問題の実相を真摯に見据えた、未来のための責任ある議論を求めてまいります。

皆様のご意見や情報を基に、政治・行政のあり方を正していくことが、小林議員や私に与えられた役割です。ぜひ、お声をお寄せください。お待ちしております。

平成28年11月

浜野 喜史

## 職場の声を国会へ！ ～第192回臨時国会

### 今国会での環境委員会質疑

私は、当選以来、環境委員会に所属しています。

この委員会では、真に実効的な環境政策と、科学的・技術的見地に立った公正な原子力規制行政の実現に向け、環境省および原子力規制委員会・規制庁への質問・意見提起を行っています。

10月20日に開催された環境委員会においては、山本公一環境大臣や田中俊一原子力規制委員会委員長に、皆さんの考えや思いを踏まえた質問をぶつけました。



### 温室効果ガス削減に向け、技術開発と経済成長の両立を！

我が国は、2030年に向けて26%の温室効果ガス削減を目標としています。一方で、現在、環境省ではさらに踏み込んだ2050年80%削減に向けた長期低排出発展戦略を検討しています。「温室効果ガスの削減目標達成のためには、革新的な技術開発と経済成長の両立が必要である」という趣旨の主張を行い、山本環境大臣からも「その通りである」との答弁がありました。

### 実効性ある目標達成のためには、最初に規制を強化するのではなく段階的な意思決定を！

地球温暖化は長期的課題であることから、環境影響や国際政治、技術進歩といった面で様々な不確実性を持っています。目標の達成に向けた政策実施に際しては、最初に高い目標を掲げて規制を強化するのではなく、状況変化を見極めた上でより良い計画を検討するといった段階的な意思決定が重要であることを指摘しました。

### 日本原電敦賀発電所の敷地内破碎帯評価書書き換え問題には、さらに疑問

この評価書については、以前から何度も国会で取り上げています。

これまでの審議を通じて、事業者の意見を聞くことなく評価書が取りまとめられたり、有識者が文案を最終的に了承した記録が残っていないなどのずさんな作成プロセスの問題を追及してきま

した。また、有識者からの書き換えの提起や公開の場での議論もなしに、事務局が発電所の将来を左右しかねないもっとも重要な結論部分の変更の提案を行ったばかりか、その書き換えの材料としてきた専門家のコメントも、今回の評価の対象である2号機ではなく、1号機に関するものであったことなども明らかになってきています。

今回の追及で原子力規制庁は「専門家のコメントに加えて、過去の会議での議論も踏まえて結論部分の書き換えを提案しました」と答弁しました。ある時点の会議で一度「変えない」と決まったものを、公開の議論を経ることなく、「事務局がその会議以前の議論も踏まえて変えました」といった説明には全く納得いきません。評価書の取りまとめ過程には大きな問題があります。

## IAEA 報告書で指摘された課題・問題点の解決を！

本年4月、国際原子力機関（IAEA）によって公表された総合規制サービス（IRRS）報告書についてもとりあげました。この報告書は、IAEAが我が国の原子力規制行政全般についてレビューをしたものであり、多くの課題や問題点が指摘されています。田中原子力規制委員長に対して、これらの点について真摯に検討することを求めました。私も、引き続き規制委員会における検討状況をチェックしていきます。

今国会では、環境委員会以外にも**議院運営委員会理事**を務めています。また、新たに、従来の震災復興・原子力問題特別委員会等を再編して作られた**資源・エネルギーに関する調査会**に所属しています。

## 議院運営委員会理事

議院運営委員会理事会は、テレビで中継される予算委員会などとは異なる地味な存在ですが、院の運営全般に関わる大きな権限を持っています。とりわけ、本会議の審議日程や議案の設定を担っており、議院運営委員会理事会の了承がなければ、予算や法案など、どんなに重要な案件であっても審議に入ることさえできません。他にも、今国会冒頭では、北朝鮮の核実験への抗議決議を行いました。このような与野党を超えて賛同を求める議案の取りまとめも私の役目です。

## 資源・エネルギーに関する調査会

調査会は、参議院独自の制度です。任期が長く、解散のない参議院の特色に着目し、3年程度の長期にわたって一つの課題を総合的に調査・審議するものです。

資源・エネルギーに関する調査会は新設の調査会ですが、**資源に限りのある我が国の、責任あるエネルギー政策**について、現実的で地に足のついた議論が行われるよう、目の前の人気取りや非現実的な理想論に警鐘を鳴らしながら、質問を重ねてまいります。

## 浜野喜史

昭和35年12月21日兵庫県生まれ、神戸大学経済学部卒業  
昭和58年4月 関西電力株式会社入社  
平成9年6月 関西電力労働組合本部書記長  
平成11年9月 全国電力関連産業労働組合総連合事務局長  
平成17年9月 全国電力関連産業労働組合総連合会長代理  
平成25年7月 参議院議員初当選

お問い合わせ・ご連絡は下記をお願いいたします。

浜野喜史事務所（電話）03-6550-0521（FAX）03-6551-0521  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館521号室



**政策の3つの柱**

「皆がいきいきと働ける社会」をめざします！

- 雇用のセーフティネットの整備、充実を目指します。
- メンタルヘルス対策をはじめとする労働環境、安全衛生に関する政策・制度の充実をめざします。

将来にわたる「安定的なエネルギー政策」の確立をめざします！

- 「電力関連産業の健全な発展」をめざします。
- 「安心、安全」を万全にしつつ、「エネルギーの安全保障」「地球環境保全」「経済成長」を同時に達成するためのエネルギー政策を確立します。

「継続と改革」の実行を通じた「公正で活力ある社会」をめざします！

- 国民一人ひとりが安心して暮らすことができる社会保障制度をつくります。
- 働く者の視点に立った、公平・公正な税制度をつくります。